

2021 2/23

No.2133

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

政治経済

月
影



横浜市港北区の大倉山公園梅林に見ごろの季節がやって来た。46種、約220本の梅が早咲き、中咲き、遅咲きと順番に花を開き、長く楽しむことができる。写真は2月16日撮影。



contents

視点点描

「伝わる」ように書くとは 3

デモクラシーの現場から 4

待ち構える審判、
世論風向きに与野党凝視

文化

外国人にささる日本史のツボ
元外交官がポイント解説 6

くらし2021 8

75歳以上の医療費負担

企業最前線

ワクチン向け超低温保管・輸送
メーカー、冷凍庫を相次ぎ増産 10

アジアの風

民主主義知った
市民の抵抗と国軍の誤算 12

神奈川景気データファイル 14

神奈川景気データファイル 15

事務局だより

◇2021年3月定例講演会
ユーチューブによるライブ配信で開催
配信日時 3月16日(火)午後
0時30分～1時30分
講師は飯館村復興アドバイザー
で前原子力規制委員会委員長
の田中俊一氏
演題は「東日本大震災から10年
—福島第一原発事故被災地の
現状と課題—」

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226) 2121。

視点

点描



「伝わる」ように書くとは

投稿欄を担当して、さまざまに原稿を読む。皆、書きたいことがあって書いてくるのだが、「伝えたい」とか「ちゃんと伝わるだろうか」と今まで考えていて原稿は、案外と少ないと最近感じる。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言で、多くの店舗が休んだり営業時間を短くしたり。廃業を決めたところもある。

店として閉店の理由や無念の思いも伝えたいだろうが、客が知りたいことは「今後この店が利用できるか否か」だつたりする。「伝

「店が閉まっている時、店を『疊んだ』のか『(○日まで)休んでいる』のか『営業時間が変わった』のか、一目で分かる貼り紙があるがたい」という趣旨のツイッターを何件か見掛けた。

店としては閉店の理由や無念の思いも伝えたいだろうが、客が知りたいことは「今後この店が利用できるか否か」だつたりする。「伝

える」「伝わる」は難しい。

そんなことを考えていた時、綾瀬市から届いた「あやせ安全・安心メール」が後段部分で「やさしいにほんご」と題して、お知らせ内容の要約（簡略版）を付けていた。改めてじっくり読んでみた。

例えば「綾瀬市における、新型コロナウイルスの新規感染者は、市民の皆さまの御協力により、少しずつですが減少傾向となつてき

ました」は「ころなになるひとは、みんなのがんばりですこしづつへっています」「しかしながら、県内では、依然として医療現場がひつ迫するなど、大変厳しい状況が続いております」は

高齢者や子どもにも伝わりやすいが、どこまで「やさしく」するかは試行錯誤が続く。「省略して肝心なことが伝わらないと困るので、兼ね合いが難しい。正解はないのかも」と市の担当者

受け取る人の立場になつて、伝えたいことがちゃんと伝わるようになる。そういう文章の書き方が必要な場合もある。

（神奈川新聞社編集委員
青木 幸恵）

国人に必要な情報を伝えるこの試みは2020年2月から。外国人向けというと多言語化を思い浮かべるが、出身国が多岐にわたるとそれぞれの言葉全てに対応するのは無理がある。市内在住外国人の8割が簡単な日本語なら理解できるというデータを得られたこともあり、「日本で暮らす者の共通言語」として「やさしいにほんご」を始めた。